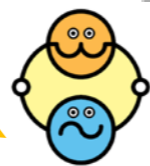


外来植物除去記録表

植物の名称	除去数
オオバコ	1,942
シロツメクサ	1,505
スギナ	4,691
セイヨウタンポポ	23
イタドリ	5,064
エゾノギンギシ	2
フランスギク	47
ススキ	581
オノエヤナギ	2
ヨモギ	1
フキ	7
アカツメクサ	3
合計	13,868



1年生必修の演習「エコツアーI」では、富山県内の立山で、外来植物除去活動を行い、13,868本を除去しました。



スイッ知オン!

立山での外来植物除去活動に

地域と県大。「地」と「知」でつながろう!

富山県立大学

COCニュース

文部科学省 地(知)の拠点



2014 9 vol. ②



学生団体COCOS(地域協働研究会)は、射水青年会議所の方々と協働して射水の「食」を発信するための事業に取り組んでいます。(写真:射水青年会議所の方々とCOCOSメンバー)

参加した学生の感想

自然が今危機を迎えているのは、人間の干渉が原因だといわれているが、ほとんどの人間はマナーを守り、自然を大切にしている。また、人間と自然は完全に分けることは不可能である。従って、一人ひとりが自然との共生を意識して行動することが大切だと思う。今回の活動では、自然だけでなく、様々な人とも交流できて、とても楽しかった。(生物工学科 学生A)

立山の課題としては、現在様々なところに外来植物が育っていることがある。この解決策としては、立山に登るときは、できるだけ靴の裏の土をとることも、今回のような除去活動を頻繁に行うことが大事だと思う。また、ライチョウの減少も問題だと考える。ライチョウが住みやすい場所をつくり、いつでもライチョウが見られるようになればよいと思う。(環境工学科 学生B)

地域の声に学び語る

地声学語

七夕の夜、本学の学生がテレビのニュースでインタビュアーに答えていた。地域協働授業で国道8号線の橋梁の点検作業を体験し、いかに安全対策が重要かを実感したことを、目を輝かせながら述べていた。学生が、地域の課題を自らのものとしてとらえ、課題解決を模索することがCOC事業の目指すところである。

今、「教員が何を教えたのか」ではなく、「学生が何をできるようなったか」を基準として教育を考えなければならぬ。「教えたこと」や「教えなければならぬこと」ばかりに目を奪われていないと、学生の成長を度外視しかねない。私たちは、学生の視点から考え、学生のより一層の目の輝きを求めて地域協働の取組を進めていきたい。

アクティブラーニング協働スペース利用案内

●場所 環境工学科棟 333号室

●利用時間 8:50~19:00

* 休職中等において変更する場合がございます。

●対象 全学生

<利用申込み方法>

地域協働支援室(内線255)、又はメールで申込み:
件名・学科・学年・氏名・利用日及び時限を記入
coc1@pu-toyama.ac.jp



〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL. 0766-56-7500(代) FAX. 0766-56-8022

URL. <http://www.pu-toyama.ac.jp>



●平成26年度前期地域協働授業取組レポート・・・p1

●地域協働授業成果発表会・・・p3

学生インタビュー：情報システム工学科
2年生 水内智也さん

●平成26年度 地域協働授業等実施状況・・・p4

●特集

学生団体 **COCOS** (地域協働研究会) 活動報告・・・p5

●平成26年度 COC地域志向教育研究費採択結果・・・p6

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援し、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています。平成25年度、全国の各大学等から319件の申請があり、本学を含む52件が採択されました。

平成26年度に入り、本学の授業内におけるCOC事業の取組もいよいよ本格的に始動しました。ここでは、その取組の一部を紹介します。

キャリア形成論



6月5日、本学OB・OGの方々に講師に招き、「地域産業界の課題とその解決に向けて自分たちができること」をテーマに卒業生との対話型グループワーク授業を実施しました。

環境論 I : エコツアー I



7月26日、1年生必修の環境リテラシー教育「エコツアー」では、立山黒部アルペンルートで外来植物除去活動を行い、外来植物の侵入による生態系への影響を学び、生物多様性に関する問題意識や倫理観を養いました。

情報 石坂准教授 プレゼン演習



中学生の科学離れ解消を目的として、ゼミ学生がサポートしての熱気球工作教室を企画しました。ゴミ袋を使い試行錯誤の末、手づくり気球が宙に浮かぶと大喝采。学生と中学生にとって、協働作業は大変有意義な経験となりました。

環境 渡辺教授 プレゼン演習



小矢部市教育センターで観測機器を設置し、中山間地域の大気汚染物質観測を行いました。その結果を小矢部市における市街地の大気汚染観測結果と比較し、発表しました。

機械 小林准教授 専門ゼミ / 教養 平野准教授 教養ゼミ I



射水市のボランティア観光ガイドの案内で、宿場町としての成り立ちと、小杉出身の鍔絵職人竹内源造の記念館を見学し、観光ガイドとの対話を通じて、小杉の歴史についての理解を深めました。

環境論 I : ひまわり大作戦



同プロジェクトは地域貢献と環境学習を目指し、毎年行っており、5月に県大の農地にひまわりの種をまき、8月のダヴィンチ祭から、ひまわり迷路を地域の子どもたちに開放しました。

教養 平野准教授・土井講師 教養ゼミ I



コミュニティカフェのオーナー 広野美代子氏を講師に、有機野菜に関わる地元の人々の抱える課題について学び、地元の有機野菜を使った料理教室を実施しました。

環境 高橋教授 プレゼン演習



「ます寿司製造販売における県内サクラマス資源枯渇の問題」について考えるべく、県内ます寿司業者にアンケートを送付、1店舗を訪問、インタビュー、最後に成果発表を実施しました。

環境 手計准教授 プレゼン演習



良質で豊富な水を通した黒部川扇状地の観光開発の可能性について考え、現地視察や他自治体の取組事例等を調査し、その成果を自治体関係者の前で発表しました。

知能 中村教授・情報 西田准教授 プレゼン演習 / 機械 小林准教授 専門ゼミ



北陸新幹線の開業に伴う高岡の新交通体系を課題とし、新高岡駅周辺整備事業と進捗状況について説明を受け、新幹線とJR城端線、在来高岡駅で接続するJR氷見線や万葉線とのアクセス利便性等を研修しました。

区分	所属	教員名	テーマ	対象地域等
教育	教養	原口 志津子	近代化遺産の情報発信と美術館機能の研究	射水市 富山市
		濱 貴子	地域協働学生団体を利用した射水市との地域連携活動	射水市
	機械	小林 一也	持続可能な社会のための公共交通を中心とした街づくりの推進	射水市 富山市 高岡市
		竹井 敏	プラスチック材料の製造の課題と対策	射水市 富山市 南砺市
	知能	野村 俊	モノづくりとカイゼン	富山市
		高木 昇	視覚障害児向け科学イベントの参画による地域志向教育	富山視覚総合 支援学校 NPO
		松本 公久	「プラネタリウム工作教室」を通じた地域住民との対話による学習	黒部市 富山県
	情報	岩本 健嗣	地域の高校と連携した科学離れ対策	射水市
		石坂 圭吾	中学生が実施している科学研究課題の支援とラジオ電波受信コンテストの企画提案	射水市
	生物	中島 範行	小学校での理科実験の実践	射水市
西田 洋巳		DNA塩基配列比較に基づく富山湾に存在する微生物の多様性解析	射水市 富山市 黒部市 入善町	
環境	九里 徳泰	木質バイオマスエネルギー活用に関する課題抽出と持続可能な社会構築に向けた具体的な取組みの提言	氷見市	
	手計 太一	黒部地域における“水”の観光資源強化案の提案	黒部市 入善町	
研究	教養	原口 志津子	城端神明宮祭曳山行事と南砺市の魅力を発信	南砺市
		唐木 智明	水産物の養殖装置に用いる高性能圧電超音波発生装置の開発	射水市
	知能	神谷 和秀	出前モノづくり体験教室の教材開発	富山市
		高野 博史	視覚障害者のQOR向上のためのiPhoneを活用したサポートシステムの開発	NPO法人等
		森重 健一	ブレイン・マシン・インターフェースを活用した高齢者の認知機能リハビリシステムの開発	富山市
	情報	岩本 健嗣	南砺市におけるオープンデータを活用した研究	南砺市
		中田 崇行	情報システム工学エンジニアの地域貢献 呉羽丘陵における里山保全ESD教育の支援タブレットアプリケーション提案および開発	NPO法人等
	生物	浅野 泰久	富山湾の発光生物の探索と利用に関する卒業研究	入善町 魚津市 滑川市 氷見市
		渡辺 幸一	小矢部市の中山間地域における廃校を利用した大気環境観測 -地域の安全・安心のための情報発信を目指して-	小矢部市
		楠井 隆史	事業所排水の環境安全性診断と水環境改善への提案	高岡市
九里 徳泰		歴史と豊かな自然・文化を有する芦峯寺地区の特徴を活用した新たな観光と地域再生を 両立させるプロジェクトの開発	立山町	
奥川 光治		射水市海老江海岸における海の森づくりと沿岸海域の水質調査	射水市	
伊藤 始		富山市の橋梁における新しい点検方法の適用と構造安全性の分析	富山市	
立花 潤三	再生可能エネルギーを活用した観光地ブランド戦略の検討 -宇奈月温泉街のブランド戦略検討を通して-	黒部市		

地域協働授業成果発表会



1. 開会 司会進行役：COCOS 知能デザイン学科 3年 河村 智侑
" 生物工学科 1年 野田 滯夏
2. COC推進本部長あいさつ 代理 松本副本部長
3. 発表・質疑応答

井戸トピックゼミ「『ファミリーパークの魅力向上』に向けて、学生からの提案」
濱トピックゼミ「地域企業経営者から科学技術と社会、技術者としてのキャリア形成について学ぶ」
森トピックゼミ「地域企業における製品開発」
竹井トピックゼミ「プラスチック材料の製造の課題と対策」
中田トピックゼミ「呉羽丘陵での小学生向け里山教育支援タブレットアプリ開発」
岩本トピックゼミ「南砺市におけるオープンデータの利活用に関する市長への提言」
浅野トピックゼミ「生物の発光現象の研究と実用化」

4. 全体質疑応答
5. 講評 COC推進本部 中島副本部長
6. 閉会



7月18日(金) 本学大講義室にて、学生団体COCOSの2名が司会進行を務め、「前期COCトピックゼミ・地域協働授業成果発表会」が開かれ、学生が地域の課題についての解決策などを提言しました。
4月から全学の6割以上のトピックゼミで、地域関係者との対話を通じた授業に取り組みできました。その成果を7つのゼミが発表しました。
発表した学生も含め、発表会に参加した学生は約100名、その他地域関係者も参加してくださいました。
発表では、「オープンデータを活用して南砺市の観光を活性化させるべく、ジビエやそばを扱う店舗データの集約を提案するもの」、「生物の発光現象を富山県の観光資源として活用するといったアイデアをだすもの」、「植物同定のためのタブレットアプリを企画、開発したものを実際に動かして見せるもの」など学生たち独自の発想が見られました。
参加した地域関係者の方々からも質問が挙がり、大変活気のある場となりました。
なお、後期はトピックゼミを含め、全ての地域協働授業を受講した学生の成果発表会を1月29日(木)（専門ゼミ、プレゼン演習、教養ゼミ）及び1月30日(金)（トピックゼミ）に開催する予定です。

学生インタビュー

発表会で大活躍した情報システム工学科2年生 水内 智也さん

●トピックゼミでの取組について教えてください。
小学生の子どもたちが植物に興味を持つよう、植物を見分けるためのアプリケーションを作成しました。

●発表の仕方の参考にしたい人はいますか？
去年の12月、情報システム工学科の中田先生にインターンとして学会に連れて行ってもらったことがあり、そこで見た先生や他の大学の4年生の方々の発表を参考にさせていただきました。

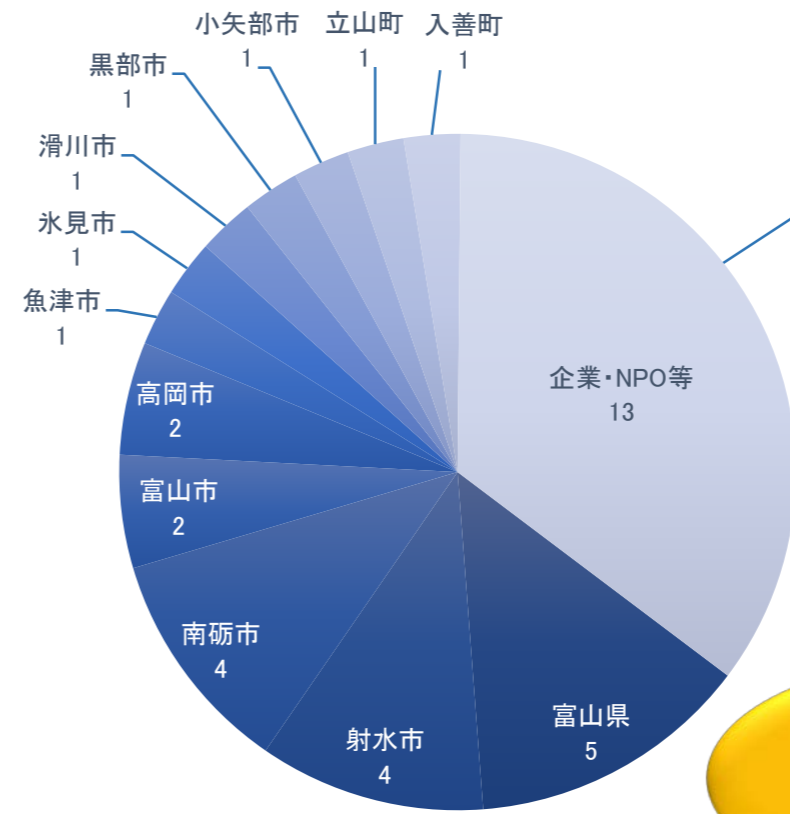
●座学に比べて今回の授業はどう感じましたか？
楽しく取組めました。取組んだ結果として誰かの役に立つという経験が出来たのが一番よかったです。そういう経験が自分を高め、モチベーションの維持にも繋がると思います。

●今後もCOC活動に関わりたいと思いますか？
興味があります。地域のために貢献できるという魅力のある活動ですので、時間と都合が合えばぜひ参加したいです。



コンセプト
・植物を見分けるために特徴になるポイントを学んでもらう。
そのために...
たくさんポイントを提示し、検索の度に一つひとつを確認してもらい、どんなところが植物の特徴になりえるか、繰り返し見て覚えてもらう！
最後に...
8月25日~8月27日「呉羽丘陵たんけん隊」にて効果を確かめます

連携先別地域協働授業数



- 【内訳】
- 企業**
- 青山総本舗 1
 - 朝日印刷株式会社 2
 - エフエム射水 1
 - カフェゴッコ 2
 - 株式会社田定工作所 1
 - たけしま食品 1
 - 富山トヨタ自動車株式会社 1
 - 富山ヤナセ株式会社 1
 - 三光合成株式会社 1
- NPO等**
- NPO法人きんたろう倶楽部 1
 - 富山県情報利活用協会 1

トピックゼミ I の6割以上が地域協働授業に取組みました。

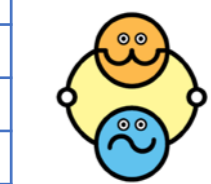
科目別地域協働授業実施状況

教員所属	トピックゼミ I	教養ゼミ I	専門ゼミ	プレゼン演習	合計
教養	5	4	—	—	9
機械	2	—	2	—	4
知能	2	—	—	2	4
情報	2	—	—	5	7
生物	2	—	—	—	2
環境	1	—	—	4	5
合計	14	4	2	11	31



教員所属	トピックゼミ II	教養ゼミ II	専門ゼミ	プレゼン演習	合計
教養	4	4	—	—	8
機械	1	—	—	—	1
知能	2	—	8	—	10
情報	2	—	5	—	7
生物	2	—	—	—	2
環境	1	—	5	—	6
合計	12	4	18	—	34

後期も引き続き活発に取り組んでいきます！



平成26年度後期 地域協働授業の実施予定について事前アンケートを7月に実施しました。

地域協働研究会“COCOS”に



スイ...知オン!



平成26年度
本格始動!



地域に役立つ技術者マインド
「工学心」で
地域とつながる全学的取組

「地域協働研究会COCOS」は、今年4月に結成しました。我々の団体名であるCOCOSは、Center of CommunityのCOCとオペレーションシステム(OS)をつなぎ合わせた造語です。これは、我々COCOSの活動目標である地域課題の解決に向け、工学を学ぶ学生の視点から地域と共に考え・活動することで地域へ働きかけていきたいという思いから付けました。現在COCOSは18人のメンバーで活動しています。メンバーのほとんどが複数あるプロジェクトリーダー等のなんらかの役職を担っており、活動やミーティングに積極的な姿勢で参加しています。

(COCOS代表 環境工学科 4年生 道谷健太郎)

【COCOSの基本活動内容と具体的取組】

COCOSの活動は、地域が抱えている問題を地域の方々と対話する中で探り出すこと、そしてその解決に向けてどうすればよいかを考え、行動することです。現在、我々の取り組んでいる主なプロジェクトは2つあります。

まず、射水青年会議所(JC)と協働して進めている「射水市を一つにするプロジェクト」です。射水市は合併して9年が経った今現在も、“新湊は新湊、内陸の地域は内陸の地域”という意識が強く「市としての一体感がない」という課題を抱えています。この課題に対して、現在は射水市のブランドメニューを制作することにより、市に一体感を持たせようという企画が進んでいます。

また、南砺市にあるCode for Nantoという団体と協力してハッカソンというイベントを企画しています。

*ハッカソンとはハッカーとマラソンを合体して作られた造語で、最近話題になりつつあるイベントです。ハッカー・クリエイター・県民等からなる参加者が、即席のグループで時間内にテーマに沿ったプログラムを作り、その完成度を競うイベントです。このハッカソンで完成したアプリケーション等が南砺市の公共交通の課題の解決に生かされることをCode for Nantoは期待しています。現在我々は9月の本番に向けてイベントをより楽しくする企画や県外からも広く参加者を集める方法を検討しています。

COCOSは毎週火曜日18:00より環境工学科棟3F地域協働支援室で全体ミーティングを行っています。

気軽に見学に来てください。

(COCOS 情報システム工学科 2年生 三宅雄太)

【COCOSに参加するメリット・今後やりたいこと】

COCOSに入る一番のメリットは、ズバリ「自分を成長させることができる！」ということです。私たち学生は、授業を受けるという立場であるため、受け身になりがちな傾向があります。しかし、これから大人として社会に出ていくうえで、自ら積極的に前に踏みだし、活躍する能力が必要となっていきます。

私たちCOCOSの活動では、地域との繋がりが一番の柱です。そのため、自然とあらゆるジャンルの人と関わり、コミュニケーションスキルを磨くことができます。

さらに、アイデア出しの方法、ミーティングのノウハウ、そして、プロジェクトのリーダーとしてリーダーシップも養うことができます。

COCOSは今年の4月にできたばかりの学生団体です。いろいろ模索しながら、皆で組織を作り上げています。今年度中に「3つのプロジェクトを実際に始動する」ことを目標に掲げています。すでに南砺市と射水市での2つのプロジェクトが始動していますが、それもまだ動き始めたばかりです。この2つのプロジェクトと、まだ見ぬ3つ目のプロジェクトを私たちは、成功に導いていこうと思います。

(COCOS 情報システム工学科 3年生 伊達伸之輔)



6月3日(火):射水青年会議所の皆様をお迎えし、11月に開催予定の射水の「食」を発信するためのレシピ応募事業に向けての今後の連携について話し合いました。



8月12日(火):南砺市 田中市長・社団法人Code for Nantoの皆様をお迎えし、9月に五箇山合掌の里にてハッカソン*を開催すべくアイデアを出し合いました。



facebookは
コチラ!



連絡先:

tpu-cocos@outlook.jp

機械 中川准教授 専門ゼミ



たけしま食品の廃棄物燃焼装置と温室を見学し、エネルギー収支の予測に必要なデータを取得しました。講義で学んだ知識をフル活用し、予測に挑戦します。(写真:マンゴー栽培ハウス現地調査)

教養 岡本准教授・井戸講師 トピックゼミ I



地域の動物園であるファミリーパークについて「保護・保存」「研究」「教育」「娯楽性」の4つの機能に関する理解を深めるため、施設を見学し、課題を考えました。

機械 森教授 トピックゼミ I



製品開発、開発事例、助成金について中小企業を調査し、発表し合い理解を深めました。実際に工場を訪ね社長と対話し、地域の中小企業の製品開発についての課題を学びました。

情報 中田講師 トピックゼミ I



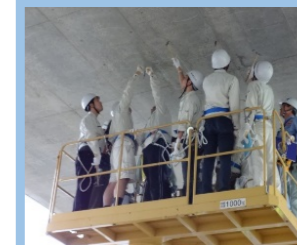
NPOきんたろう倶楽部や中央植物園等の地域の専門家との対話を通して、呉羽丘陵の里山保全ESD教育支援のためのアプリケーションの提案・開発を行いました。

生物 浅野教授 トピックゼミ I



魚津水族博物館長 稲村修氏との対話を通じて、富山湾の水棲の発光生物についての理解を深めました。富山湾深層水取水口や富山県水産研究所から発光性のプランクトンを採捕しました。

環境 伊藤准教授 卒業研究



橋等道路施設の急速な高齢化の進行を踏まえ、北陸地方整備局と連携し、老朽化の現状や橋梁点検の実体験を通じて、その対策への理解を深めました。

教養 演習講師 トピックゼミ I



株式会社スギノマシン社長 杉野氏へのインタビューと対話を通じて、科学技術の社会との関わり、社会貢献について理解を深め、学生が自身のキャリア形成の手がかりをグループで学修しました。

機械 竹井准教授 トピックゼミ I



自動車部品用プラスチック製造に関する技術課題をトピックゼミ I の中で調査しました。富山県プラスチック工業会の会員企業との対話を通じ、地域志向の教育を進めました。

情報 岩本准教授 トピックゼミ I



公共情報を2次利用が可能な状態で公開する『オープンデータ』を活用し、南砺市らしい味覚を発信するべく飲食店のデータ集約を南砺市長に提案しました。

環境 川上教授・生物 鎌倉講師 トピックゼミ I



「日常的に使っている身の回り品を工学心で見つめよう。」をテーマに、医薬品と化粧品のパッケージを取り上げました。高度な印刷技術、斬新な発想と開発力、環境にやさしいパッケージづくりを学修しました。